

第4章 帯広市のまちづくり

三浦北人

4.1 まちづくりの基本方向

帯広市のまちづくりは昭和34年に全国に先駆けて総合計画を作成して以来、総合計画に基づいたまちづくりが進められている。

4.2 第五期帯広市総合計画

4.2.1 総合計画の考え方

第五期帯広市総合計画は平成12年に策定された。総合計画は主に基本構想・基本計画・推進計画の三つに分かれている。「基本構想」は長期的な視点に立った市の発展方向、目指すべき都市像、目標などのまちづくり基本的な方向性を示すものである。「基本計画」は基本構想を実現するために取り組むべき施策の基本方向、主要な施策を示すものである。「推進計画」は基本計画を実現するための主要な施策を示すものである。

4.2.2 基本構想

帯広市はこれまで地域の自然的・社会的経済条件や、都市として果たすべき役割などを踏まえ、四期に渡って総合計画を策定してきた。第五期総合計画でもこれまでのまちづくりに対する考え方が受け継がれている。これからも豊かな自然や田園環境を生かしたまちづくりが行われていくだろう。

4.2.3 まちづくりの基本方向

帯広市はこれまで人間尊重を基本に、都市と農村の調和を図りながら、活力あるまちづくりを進めてきた。こうした考え方は、これからの地域社会を形成する上で貴重となるものである。帯広市の目指す都市像は、「人と自然が共生する可能性の大地・新世紀を開く田園都市おびひろ」というスローガンで表される。

4.2.4 まちづくりの目標

帯広市ではまちづくりの目標として「安心安全都市」、「産業複合都市」、「環境共生都市」、「生涯学習都市」、「広域連携都市」の5つを掲げている。

「安心安全都市」とは市民誰もが安全で安心して生活できる、人にやさしい街のことである。このような街を作っていくために帯広市では保健・福祉・医療が連携した地域のシ

システム作りを進めている。また、子どもからお年寄り、障害者など様々な立場の市民が安心して暮らせるような支援体制が整っている。ほかにも帯広市はアイヌの人たちの文化の保存・伝承にも取り組んでいる。

「産業複合都市」とは十勝の基幹産業である農業を核に様々な産業が連携した都市である。農畜産物を生産するだけでなく、生産物の加工や十勝産の原料を使った特産物の開発を行っている。帯広市に本店を置く六花亭は創業当初から十勝産の原料にこだわった商品づくりを行ない全国的な人気を得ている。また、広域商業・サービス都市としての機能を強化するために中心市街地の活性化や、魅力ある商店街づくりも進めている。

「環境共生都市」とは自然との共生をテーマにした都市のことである。帯広市では帯広の森や緑ヶ丘公園などを整備するなど緑地の保全を行っている。環境への負荷を軽減するために総合的な環境保全活動や廃棄物の資源化・減量化にも取り組んでいる。

「生涯学習都市」とは市民が生涯にわたって生きがいのある生活を送ることができるような都市である。帯広市ではそのために施設の整備や市民が利用しやすい環境を作っている。

帯広の目指す「広域連携都市」とは高速道路、鉄道、空港などの交通ネットワークを整備し、他の地域との交流を深め、帯広の情報を発信していくというものである。

4.3 人口 20 万人構想

昭和 30 年から 18 年間帯広市の市長を務めた吉村博氏は市民がもっとも住みやすい街の規模は人口 20 万人程度の街であるという考えを基にまちづくりを進めてきた。ほかの都市が 50 万、100 万といった大都市を目指す中で 20 万という中規模の都市を目指した理由は都市公害との相関関係や都市整備などが挙げられる。総じて市民が生活しやすい街にするために 20 万人規模の都市を目指しているといえるだろう。

現在帯広市の人口は 20 万人に達していないが、いずれは人口流入を防ぐ必要があるかもしれない。これは法的には不可能なことではあるが、対抗策として次のような方法がある。第一に市税を上げること。第二にあえて工業政策に身を入れないことである。こうした手段を取れば社会増に関しては効果があると吉村氏は考えている。自然増に関しては抑えるべきではなく奨励すべきだと吉村氏は考えている。しかし人口増についての対策については深く論じられていないので、現在の帯広市行政が対策を講じる必要があるだろう。

4.4 帯広のグリーン・プラン

帯広市の目指すグリーン・プランは「帯広の森と街を作るグリーン・プラン」をスローガンに掲げ、「街を抜けると森がある。どの道を行っても、その前に十勝特有の大樹林が大きくわれわれを迎え入れる。そしてその森の中には花壇、遊び場、運動場に記念樹林、果

実園、彫刻の森などが程よく配置され、そこには北方動物が放し飼いとなり、市民は一日楽しく過ごすことができる。」という言葉が青写真として行なわれている事業である。グリーン・プランが目指す都市像は、人口 20 万人の街を森や芝、十勝川によって囲み、森の中に上記の諸施設をふんだんに散在させるというものである。森と芝生に包まれた街の中は環状緑帯道路で商業、工業、住居などの各使用用途地域はおおむね区分される。この計画通りの都市が実現したら市民が心地良く生活できる都市となることだろう。

4.5 今後の帯広市

帯広市のまちづくりは昭和 34 年に策定した総合計画を中心にまちづくりを行なってきた。これからもその方針は変わらないと考えられるが、現在全国的には市町村合併、北海道では道州制に向けての動きが活発になり帯広市にも様々な影響が及ぶと考えられる。このような市を取り巻く環境の変化に柔軟に対応する必要があるだろう。

参考文献

帯広市，2000，『第五期帯広市総合計画』。

吉村博，1974，『風雪有情 街づくり 18 年の歩み』新時代社。